



# 八中だより



令和7年2月3日 2月号  
調布市立第八中学校  
校長 馬場 誠

HP : <http://www.chofu-schools.jp/chofu8/>

## 魅力ある学校づくりを推進する

校長 馬場 誠

私自身、中学校に上がる前は非常にわくわくしていたことを思い出します。小6のとき、進学する予定の中学校の文化祭へ見学に行きました。当時はクラスごとに演劇発表があり、さまざまな衣装や大道具小道具が並ぶ舞台は、まるで本格的な芸術作品でした。私の心を最も捉えた演目は『走れメロス』。主役のメロスが舞台狭しと駆け回り、それでは足りぬとばかりに客席にも降りてきて猛スピードで体育館中を走り回ったのでした。私にとって中学生のエネルギーに感動した初めての体験でした。年齢が上がるとこんなことができるのだと深い憧れの気持ちをもつようになりました。

入学してから同じような思いをしたのは体育祭でした。今ではもうなくなりましたが、当時は『棒倒し』という激しい競技があり、長くて太い丸太をクラスの半分の者が支え、残りの半分は相手陣地の棒をめがけて突進し、必死になって棒を倒そうとするのです。ケガの多い競技ですが、まさに男気を発揮する場として花形の種目でした。私が憧れたのは、最も体格が良く色の浅黒い先輩です。彼はその棒をたった一人で片手でわしづかみし、軽々と肩の上で持ち上げながら入場するのです。こんな棒、俺には軽いもんだぜと自信満々に入場するその姿は、私たち後輩の憧れの的でした。

あれから月日が流れましたが、中学校というわくわくした場所の輝きは失うことはありません。人それぞれ何に魅力を感じるかは違うと思いますが、子供から大人の階段にのぼるこの中学時代は、人生の特別な場所といえるかもしれません。

「学校へ行くのは楽しいですか」というアンケートに本校では88.0%の生徒が「楽しい」と答えています。多くの生徒が充実感を感じている八中です。しかし、まだ1/10以上の生徒が楽しさを感じていないのであれば、これからも更に魅力的な学校づくりを進める必要があると考えています。

次年度に向けて、これからも上向きな気持ちで取り組んでいこうと思います。

## 次年度の部活動について

毎年、次年度の部活動については不確定な状況にあります。専門的な指導ができる教員を必ず配置できるとは限りませんので、現在ある部活が持続できる保証はないということ、まずご理解いただきたいと思います。しかも、本校は運動系9つ、文科系6つ、合わせて15の部活がある一方、教員は19人しかおりません。(通級の教員もおりますが、今年度から他校と兼務していますので、実質上本校の顧問に配置するのはとても困難です。)そのため、個々の教員にさまざまな負担を掛けながら、その善意に支えられ、ようやく成り立っているのが現状です。

しかし、時代の流れの中でそのような勤務形態は見直されるようになりました。すでに国、都、市が部活動の地域展開(地域連携・地域移行)に向け動き出しています。これまで教員にだけ任せていた部活動を、地域社会が抱えていく仕組みに変えようとしているわけです。部活の在り方について今はまさに過渡期といえるでしょう。

今後については、学校全体で協議を重ねた結果、顧問配置の関係から抜本的な見直しをする必要があると考えております。どうぞ事情をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。